



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol. 9
2010.10.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

「くらしの中にある学び～ 新しい自分を見つけよう」に参加して

日本歯科大学新潟病院総合診療科 スポーツ歯科外来医長
渥美陽二郎



本大学、短期大学は8月5日に朱鷺メッセにて開催された「くらしの中にある学び～新しい自分を見つけよう」に参加しました。このイベントは中高生の皆さんに新潟県内の大学・短期大学や専門学校をより身近なものとして感じてもらい、専門分野を学ぶことへの理解を深め、さらには自分の進路を考えてもらう機会となるよう、新潟県の専門学校と大学・短期大学が協力して実施するものです。本大学からはスポーツ歯科外来、歯周病学講座、解剖学第1講座の医員、大学院生が、短大からは歯科衛生士、短大生が参加しました。



スポーツ歯科外来はマウスガード作製体験、歯周病学講座は口臭測定、位相差顕微鏡による歯垢観察を、解剖学第一講座は脳の容積測定、短大は超音波スケーラーの体験実習などを行いました。イベントには中高生のみならず親子連れも沢山見受けられました。どのブースも色々な質問が寄せられ、大変興味深く盛況でした。

このイベントで、中高生が歯科医療に興味を持ち、将来歯科医療の道へ進んでもらえたらと期待しております。



「院内勉強会」の紹介 ～障害児・者歯科センター勉強会～

●障害児・者歯科センター
島田 路征



7月15日に当院の研修室において障害児・者歯科センターの勉強会を開催しました。昨年より障害児歯科センターと障害者歯科センターが統合され障害児・者歯科センターとなりましたが、前者は主として軽度から中度の知的障害者に対して行動変容技法や身体抑制を用いて歯科治療にあたっており、後者は中途障害者や重度知的障害者への薬物的対応を中心に行っていたため、同じ障害者の対応を行っていたにも関わらず、ノウハウは全く違うという状態でした。そこでお互いのノウハウを出し合い、真の意味での統合を果たすべく、勉強会を開催することにしました。今回はその1回目で、テーマは最も基礎的な部分である「医療面接」としました。私が近年、患者数が増加している自閉症スペクトルへの医療面接について講演し、歯科麻酔全身管理科の大橋先生に障害者歯科全般の医療面接における注意点について講演して頂きました。せっかくの機会なので、当院地域支援室より地域の歯科医院にお声掛けしたところ、たくさんの先生方がお集まりになり、熱心に聴講されていらっしゃいました。地域の先生方が障害者歯科に熱意をもって取り組んでいらっしゃる事が解り、感心すると同時に、我々もこの熱意に負けない様に研鑽を積んでいかなければならないと感じました。

さて、今後の障害児・者歯科センターの勉強会についてですが、現在のところ計画はたっておりません。私の心ずもりでは、1年の内に2回から3回程度行う予定で考えております。内容としましては、自閉症スペクトルへの対応の実際や障害者に対する補綴処置、摂食嚥下障害への対応などについて行いたいと考えております。ご興味のある先生がいらっしゃいましたら、またインフォメーション致しますので、是非ご参加下さい。



障害者の医療面接

●日本歯科大学新潟病院
歯科麻酔・全身管理科 科長

大橋 誠



医療面接とは、医療スタッフと患者とのコミュニケーションの第1歩であり、これから両者が手を携えて進む治療の成否を決定付ける上で重要なファクターである。治療を受ける本人

に身体的もしくは知的、精神的障害が存在し歯科診療において特段の配慮が必要となる所謂「障害者」にとって、医療面接がより重要であることは言をまたない。

私が障害児・者歯科センターで行う医療面接の内容と順序を表①に示す。一般に行われる内容の他、障害の種類とその経過、ADL(activities of daily living:日常生活動作)を含む生活環境を把握することはその後の治療を進める上で非常に重要である。

実際に障害者の医療面接では本人からの情報は限られる場合が多く、家族もしくは患者が現在所属する施設の職員からの情報が重要となる。本人ならびに家族、施設職員に医療面接を行った時の利点・欠点を以下に示す。これを念頭に置いた上で、正しい情報の収集に務める必要がある。

医療面接の内容と順序

1. 自己紹介
2. 患者氏名と年齢、付添者との関係の確認
3. 障害の種類
4. 生活環境(在宅か施設か)
5. 主訴
6. 現病歴
7. 既往歴
 - ①全身的既往
障害・疾患の内容
就学状況
常用薬
アレルギー
感染症の有無
 - ②歯科的既往
過去の治療内容
8. 家族歴

表①

対象者	利 点	欠 点
本 人	①治療に対する意欲や理解度を推し量れる ②本人の知的能力や行動能力が推し量れる ③環境や医療従事者に対する慣れの醸成が期待できる	①収集できる情報が少ない場合が多い ②自閉症等では嫌悪感情の刷込みの原因になりうる
家 族	①基本的情報収集の対象者で情報内容が豊富 ②出生時からの情報が得られ易い ③生活上の好悪など感情面での情報が得られ易い	①正確な医療情報とは限らない ②「出来る筈」や「かわいそう」など主観的情緒に左右される場合がある
施設職員等	①現時点での情報は家族より豊富な場合がある ②客観的な医療情報が得られ易い ③嘱託医など他の医療機関への窓口になりうる	①入所前の情報は少ない場合が多い ②情緒面での情報内容に限りがある ③必ずしも患者の日常生活を把握しているスタッフが付き添ってくるとは限らない

なお、障害者は多剤服用中の場合が多い。内容の確認には主治医への対診はもちろん、治療に用いる薬剤との相互作用について「医薬品医療機器総合機構(PMDA)」のHP(<http://www.info.pmda.go.jp/>)で別個確認することが望ましい。



第5回新潟口腔ケア研究会



平成22年9月5日(日)に日本歯科大学新潟生命歯学部講堂にて第5回新潟口腔ケア研究会が開催されました。当日は新潟県内の医科、歯科、介護福祉看護、関係者を中心に約250名の参加者があり、一般演題、教育講演、特別講演が行われました。会場には口腔ケア関連の企業ブースが6社設置され、試供品の配布や、器具、薬剤の使用法や効果などの説明がありました。一般演題では新潟県の医療施設から6演題発表され、急性期病院退院後の口腔ケアによる口腔内環境悪化の予防、癌治療中の口腔ケア、要介護者の口腔ケア、NSTチームの口腔ケアの取り組み、介護療養病棟による口腔機能維持管理加算、透析患者の口腔ケアなどについて活発に意見交換がなされました。

教育講演は日本赤十字広島看護大学基礎看護学教授 迫田綾子先生に「ケアの視点からの口腔ケア論 ―施設と地域、ケアチームを結ぶ―」のテーマで講演いただきました。口腔ケアは浸透しつつあるが、看護ケアの観点から①哲学/思想的レベル、②臨床的/技術レベル、③制度/政策的レベルの3つの場面で検討する必要性があり、口腔ケアのあり方を問い直すことを提唱されました。また、口腔ケアの目的は誤嚥性肺炎を防止するだけではなく、対象者がどのような生活を営んでいきたいかを引き出すことであり、専門職として健康や生きることという「坂道」を、教育や環境へアプローチして緩やかにし登ることを助けることが肝要であると述べられました。しかし、課題も山積しており、特に異業種間での見解が統一されておらず、EBMによる臨床技術の取得が必要であるとし、口は生きることそのものであり、幸せではないと健康にはなれないと強調されました。

特別講演は福井済生会病院耳鼻咽喉科・頸部外科主任部長 津田豪太先生が「チームでする嚥下障害治療 特に耳鼻科医の役割」のテーマで講演されました。嚥下障害には色々な要因があり、症例ごとに程度も予後も様々で、ワンパターンな対応では困難であり、多職種間での協力を強調されました。嚥下チームにおいて、医師、歯科医師に望まれることは嚥下機能の重症度、代謝機能、原疾患の予後、危険の抽出を評価し、治療計画の立案を行うことであり、さらに適切な危険管理を行うことも重要で、嚥下訓練での失敗は誤嚥性肺炎につながることで、チームには絶対的責任者が存在しないと嚥下治療を希望するスタッフ育たないということを話されました。そして耳鼻科医の役割について嚥下内視鏡検査などを行い、嚥下運動を的確に把握し、その状態により①嚥下機能を回復させる、②代償法の提案、③外科的治療、④他方法の検討を行ない、各スタッフに指示することであると解り易く解説いただきました。

次回の第6回新潟口腔ケア研究会は平成23年9月4日(日)に日本歯科大学新潟生命歯学部講堂で開催予定です。





画像検査依頼申込書(FAX用)の書き方

FAXによる予約システムがスタートしてしばらく経過しました。よりこのシステムを円滑に使用していただくために申込書の書き方についてご説明いたします。

I. 【受診希望日】

●お電話をいただければ、予約の空き状況をお知らせいたします。

第1希望	月	日	(曜日)	午前・午後	時	分
第2希望	月	日	(曜日)	午前・午後	時	分
第3希望	月	日	(曜日)	午前・午後	時	分
希望日なし	※予約日をお任せ頂ける場合には、希望日なしに○をつけてください					

予約状況によりお待たせする事がないように、第1希望から第3希望の日時をお知らせ下さい。希望日のない場合はこちらにて決定させていただきます。

検査時間は検査内容により異なりますが30分から1時間程度を要します。

月曜～金曜日 / 10:00～11:30 13:30～16:00 (CT:月曜・水曜は午前のみ)

II. 【依頼検査種別・目的・部位】

依頼検査種別	内 容	目的・部位
CT (月・水はAMのみ)	☐ インプラント(自費料金) ☐ その他()	
MRI	☐ 顎関節 ☐ その他()	
X線写真	☐ セファロ撮影(自費料金) ☐ その他()	☐ 正面 ☐ 側面 ()

依頼検査種別・内容・目的・部位はお間違えないようにお願いします。

自費料金の検査において患者様には事前に自費料金である事をご説明下さい。

III. 【検査データの保存方法と診断書の有無】

- ☐ フィルム
☐ CD-R → ☐ DICOM Viewerあり ☐ DICOM Viewerなし
☐ 診断結果報告書

検査データはエックス線フィルムもしくはCD-Rにしてお渡しいたします。いずれかにチェックを入れてください。

CD-Rをお選びの場合、CD-R内のデータは

DICOM形式の画像となります。

DICOM Viewerありを選択の場合、お渡するCD-R内にPC上で画像をみるためのソフトを添付いたします。簡単な距離計測や角度計測、画質調整等も可能です。

DICOM Viewerなしを選択の場合、お手持ちのPCにDICOM Viewerソフトを導入してください。フルウェアであっても3次元表示や手術シュミレーション等の高度な機能を有しているものもあります。

診断結果報告書にチェックを入れると、検査結果を報告書にしてお渡しいたします。

※1.閲覧用のPCはOS :Windows xp以上 を使用してください。

2.DICOM形式以外での画像形式(JPEG等)をご希望の場合はご連絡下さい。

IV. 【検査結果受取方法】

- ☐ 患者持参 ☐ 郵送 ☐ その他()

検査結果は

1. 患者様にお渡しする方法
 2. 郵送にてお届けする方法(着払いとなります。)
 3. その他の方法(具体的にご記入下さい。)
- があります。

その他、料金等でご不明な点がある場合は地域歯科医療支援室にご連絡をお願いします。



地域歯科医療支援室から

■ 平成22年7月よりFAXによる事前予約を開始しました。

ご紹介頂く医療機関におかれましてはお手数をおかけしますが、患者様の待ち時間短縮のため、是非FAXによる事前予約をご利用くださいますようお願いいたします。なお、従来どおり各診療科に直接患者様をご紹介頂くことも可能です。

■ 平成22年7月より返書システムを改変いたしました。

ご紹介頂いた医療機関に来院報告はがき・診療経過報告書が届いておりますでしょうか。ご意見・ご要望がございましたら、地域歯科医療支援室までお願いいたします。（地域歯科医療支援室 神田 明）

日本歯科大学新潟病院地域歯科医療支援室

メールマガジン登録の御案内

■ 近年、歯科界を取り巻く情勢は厳しく、医療法改正や診療報酬改正においても、医療安全、院内感染対策をはじめとする研修の義務化や、医科歯科連携を含む他業種との連携強化などが要件として盛り込まれるなど、各種医療情報の早期収集や病診連携が重要になっております。このような現状をふまえ、新潟病院地域歯科医療支援室では、地域の歯科医師を対象に、メールマガジンを開設いたしました。

■ 本事業にご登録いただくことにより、新潟病院関係各科からの医療情報や医療安全情報、研修会、講習会、学会情報などの御案内を優先的にさせていただきますシステムです。

■ 登録ご希望の先生は、申込書を支援室直通FAX(025-267-1546)していただきたく存じます。申込書は、新潟病院ホームページ地域歯科医療支援室(<http://www.ngt.ndu.ac.jp/hospital/index.html>)からダウンロードできます。

■ なお本システムのサーバ管理は、新潟病院生命歯学部ITセンターにて行います。また地域歯科医療支援室は、本事業における収集した個人情報の漏洩、滅失又は棄損の防止、その他収集した情報の適切な管理のために必要な措置を講じます。

【注意事項】

受信される先生のメール環境によっては、マガジンのメール容量が重いため配信できない方がおられます。添付ファイルの軽量化を図るなど、改善策を講じておりますので、しばらくお待ちください。

【免責事項】

メールの配信については、回線上的問題（メールの遅延、消失）等により届かなかった場合の再送は行いません。本事業は、新潟病院の都合により、「新潟病院ホームページ」において予告した後に中止又は廃止されることがあります。新潟病院は、本事業の利用、運用の中止、延期、終了等により発生する一切の責任を負いません。



● 本メールマガジンへのお問い合わせ、ご意見、ご希望ありましたら、shien@ngt.ndu.ac.jpまでお寄せください。



本号より紙面の文字が大きくなりました。



編集
後記

■ 今年の夏は流行語大賞にノミネートされそうな“スーパー猛暑”なる新語（造語?）を残し、それでもやはりいつものようにちゃんと秋は訪れました。行楽の秋、スポーツの秋、読書の秋、そしてなんといっても食欲の秋です。あつという間に訪れる冬に備えて、また風邪やインフルエンザに負けないように体力や免疫力の向上は重要になります。メタボには気を付けつつ心身の健康づくりに励み余裕を持って冬を迎えましょう。（ふーじー）



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol.9
2010.0.0

発行日／平成22年10月1日 発行人／関本恒夫

〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8

TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)